

オートマチック マニュアル 『AT車とMT車の違い』

AT車・・・Automatic Transmission (オートマチックトランスミッションの略) 自動変速機という意味。
 MT車・・・Manual Transmission (マニュアルトランスミッション) 手動変速機という意味



※当ページは、関目自動車学校の著作物です。リンク・転載を禁じます。
 Copyright © 2016 Sekime Driving School

AT車 (オートマチック車)



チェンジレバー



オートマチックトランスミッション

ギヤを **D** に入れておけば、速度にあわせて自動的に適切なギヤに切りかわります。

●速度が**速**くなると、自動的にギヤが**上**がっていきます。



●速度が**遅**くなると、自動的にギヤが**下**がっていきます。



※大阪の教習所で免許取得される方の、(警察庁 H24 年度実績による)
『約 60%』 が AT 車を選択されています。

オートマチック車免許取得の良い点

- 2011年度の統計(右上・図1)では、新車販売台数の**98.5%**がAT車です。
- 車が自動で変速機を操作するので、MT車と比べ**運転操作が比較的簡単**です。
- 最短教習時限もMT車に比べ、3時限短く、**免許取得費用もお安**くなります。
- MT車と比べて、**補習授業がつきにく**くなります。
- 最短教習時限がMT車と比べて短かく、補習にもなりにくい為、**MT免許取得よりも比較的早く免許取得が可能です。**

オートマチック車免許取得の悪い点

- AT免許は、**普通自動車のAT車しか運転できない免許**になります。
- 企業が所有する車**(特にバス・トラック等)は、自家用乗用車と比べ**MT車の率が高く**、職業ドライバーを目指している方には向いていない免許になります。
- MT車を運転したい場合、限定解除が必要**(例: 教習所で限定解除される場合、最短教習4時限+試験+交付手続き)になります。
- 運転操作が簡単な為、**AT車特有の事故**があります。

MT車/AT車比率			
	MT比率	AT比率	乗用車総販売台数
1985年	51.2%	48.8%	289万2894台
1990年	27.5%	72.5%	408万5005台
1995年	19.2%	80.8%	318万1286台
2000年	8.8%	91.2%	271万840台
2005年	3.4%	96.6%	309万6683台
2010年	1.7%	98.3%	271万4319台
2011年	1.5%	98.5%	212万5329台

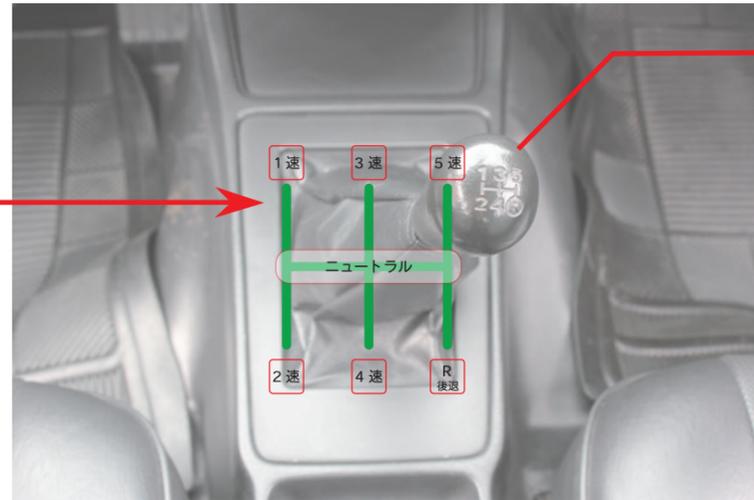
【図1】(自販連調べ、軽自動車と輸入車除く)

MT車 (マニュアル車)



チェンジレバー

チェンジペダル



●このシフトレバーを、車の速度に応じて、**手で操作をする必要があります。**

1速 → 2速 → 3速 → 4速 → 5速
 1速 ← 2速 ← 3速 ← 4速 ← 5速

●変速操作の手順

- クラッチをいっぱい踏み込む。
- 速度に応じたギヤに操作をする。
- クラッチを上げる。

マニュアル車免許取得の良い点

- MT車とAT車の**両方が運転出来る免許**です。
- 企業が所有する車**(特にバス・トラック等)は、自家用乗用車と比べ**MT車の率が高く**、職業ドライバーを目指している方に向いています。
- 両手両足を使って運転操作をしますので、**運転する楽しさが味わえる免許**です。**スポーツカー等に乗りたい方は、MT免許をお勧めします。**

マニュアル車免許取得の悪い点

- 国産車でMT車の販売が減少し、**購入できるMT車が少なく**、免許を取得しても乗れる車が無い状態になりつつあります。(参考: 2011年度の統計(AT右上・図1))
- AT車と比べ**運転操作が非常に複雑**で、難しい免許になります。
- 最短教習時限もAT車に比べ、3時限長く、**免許取得費用も高額**になります。
- AT車と比べて、**補習授業の可能性が高**くなります。
- 教習期間が、AT車に比べ非常に複雑な為、**長期間必要な確率が高**くなります。